

2016年度第1回学部評価会議報告

■概要

日時：2016年6月9日(木) 19:00～

場所：Galleria 商.Tokyo(丸の内サテライトキャンパス)

■学部評価会議 参加者

池田 博義 氏

マイツグループ 代表取締役統括社長

※以下、五十音順

浅川 潤一 氏

千葉商科大学付属高校 教頭

親泊 寛昌 氏

東京都立千早高等学校ビジネスコミュニケーション科 ビジネス科 主幹教諭

五島 勝也 氏

バニラ・エア株式会社 代表取締役社長

土田 博幸 氏

内外日東株式会社 管理部 人事研修チーム チーム長

宮内 史絵 氏

株式会社フィナンシャル・エージェンシー 業務本部 業務ソリューション部 担当部長

森山 育子 氏

株式会社ジェイコム市川 局長

■本学関係者

宮崎 緑 国際教養学部学部長

渡辺 恭人 教授

山田 武 教授

鈴木 恒雄 教授

久保 裕也 教授

施 敏 准教授

本学関係者より、学部の年度教育計画と海外短期研修の内容について報告を行い、参加者より下記のご意見やご助言をいただきました。国際教養学部では、この度いただいたコメントを教授会で共有し、今後の教育活動に活かしていきます。

海外短期研修で最大の効果を得るために

- ・海外短期研修でミッションを与えるという教育は面白い。例えば日本人が考える日本と海外の人が考える日本は異なる、それを知ることが重要である。一つの自信が一つのチャンスにもつながるので、小さなことでも積み重ねていくことが大事である。
- ・海外短期研修の目標やミッションの立て方が重要で、より具体的（数値化）に立てることが必要である。あいまいな計画だとあいまいな結果で終わってしまうため、小さな目標でもかまわないので、具体的かつ着実に実行できる目標を立てることが大切である。
- ・どんな小さなことでも構わないので、海外短期研修中に達成したいことを箇条書きで具体的に多数用意、一つずつクリアしていくと、経験を見える化できると思う。現地では日本人同士でかたまらず、いろいろな人とコミュニケーションをとることが必要である。
- ・海外に行くと、日本の代表として見られ、日本のことを聞かれることが多い。知っておくことも重要だが、たとえ知らなくてもこれまでの経験や感覚を基に、自分で考えて判断して言い切ることも大切である。海外短期研修中は、現地で生活する中で、話す努力をし、練習して、その中でもっと上手く説明したい、あるいはもっと日本のことを説明したいと思えることが大切で、その経験が帰国後の勉強に活きるのではないか。
- ・日本と異なる文化で、いろいろな体験をすることが大切である。自分で立てた目標と自分で体験することに差が出た時にポジティブに考えられる人とネガティブに考えてしまう人がいる。そのギャップが「世界を知ること」であり、その経験がグローバル人材につながる。先生方には彼らがそれを受け止められるように、しっかりと指導いただきたい。

国際教養学部の教育について

- ・今の若い世代の多くは日本を知らないため、世界を出て行く前に日本のことを知ることは重要であり、国際教養学部のスキームは素晴らしいと感じる。日本のことに興味を持つには地域に目を向けることが大切である。
- ・授業や講演などでも自分事と捉えられない学生がいるため、どれだけ自分のことに考えられるか、いかに自分の問題として考えられるかということが重要と言える。
- ・縦のつながりが希薄になってきている中で、国際教養学部の海外研修において先輩が後輩を見送る、あるいは先輩が後輩を教えることはひとつの縦のつながりであり大切である。興味を持って積極的に行動して、次につなげる、その道しるべになるのは先輩である。大学生が出身高校を訪問して、大学での学びを後輩に伝えることも高大連携の重要なポイントである。
- ・高校でも修学旅行は海外に行ったり、積極的に海外の人と関わりを持ったり、海外との連携や取り組みを推奨している。高校生は、何かしらの体験がないと伝わらないため、人の役に立つなど実感を得られるような仕組み作りを目指している。大学生でも体験を

得てそれを役立てられるような仕組みが必要であり、実践的なことが「見える化」されるとよいのではないか。